

\*「刷」の欄は、以下を表す。

1: 第1刷のみの修正

正誤表

刷	箇所	誤	正																																																										
1	p.20 ・ p.112	<p>表 8.6 構造体コンクリートの圧縮強度の検査</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">構造体コンクリートの圧縮強度の検査</th> </tr> <tr> <th>設計基準強度が 36 N/mm<sup>2</sup> 以下の場合</th> <th>設計基準強度が 36 N/mm<sup>2</sup> を超える場合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>検査のロット</td> <td>450 m<sup>3</sup> 以下</td> <td>300 m<sup>3</sup> 以下</td> </tr> <tr> <td>試験・検査回数</td> <td>試験は打込み日ごと、打込み工区ごとに行う。ただし、1日の計画打込み量が 150 m<sup>3</sup> を超える場合には、150 m<sup>3</sup> 以下にはほぼ均等に分割した単位ごとに1回、検査は3回の試験で1ロットを構成</td> <td>試験は打込み日ごと、打込み工区ごとに行う。ただし、1日の計画打込み量が 100 m<sup>3</sup> を超える場合には、100 m<sup>3</sup> 以下にはほぼ均等に分割した単位ごとに1回、検査は3回の試験で1ロットを構成</td> </tr> <tr> <td>供試体の採取</td> <td colspan="2">1回の試験には、適当な間隔をおいた3台の運搬車から1個ずつ採取した合計3個の供試体を使用</td> </tr> <tr> <td>供試体の養生</td> <td colspan="2">標準養生</td> </tr> <tr> <td>試験材齢</td> <td colspan="2">調査強度を定めるための基準とする材齢(28日)指定がある場合には指定材齢</td> </tr> <tr> <td>試験機関</td> <td colspan="2">第三者試験機関または同等の能力を有する試験所</td> </tr> <tr> <td>判定基準</td> <td colspan="2">鋼管充填コンクリートの調査管理強度 (<math>\tau F_m</math>) 鋼管充填コンクリートの調査管理強度 (<math>\tau F_m</math>) = 設計基準強度 (<math>F_c</math>) + 鋼管充填コンクリートの構造体強度補正值 (<math>{}_mSC_n</math>)</td> </tr> <tr> <td>合格判定の条件式</td> <td colspan="2"> <math>X \geq F_c + {}_mSC_n</math> (<math>= \tau F_m</math>)  <math>X</math>: 1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm<sup>2</sup>)  <math>{}_mSC_n</math>: 鋼管充填コンクリートの構造体強度補正值 (N/mm<sup>2</sup>)  <math>F_c</math>: 設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>)                 </td> </tr> </tbody> </table>	項目	構造体コンクリートの圧縮強度の検査		設計基準強度が 36 N/mm <sup>2</sup> 以下の場合	設計基準強度が 36 N/mm <sup>2</sup> を超える場合	検査のロット	450 m <sup>3</sup> 以下	300 m <sup>3</sup> 以下	試験・検査回数	試験は打込み日ごと、打込み工区ごとに行う。ただし、1日の計画打込み量が 150 m <sup>3</sup> を超える場合には、150 m <sup>3</sup> 以下にはほぼ均等に分割した単位ごとに1回、検査は3回の試験で1ロットを構成	試験は打込み日ごと、打込み工区ごとに行う。ただし、1日の計画打込み量が 100 m <sup>3</sup> を超える場合には、100 m <sup>3</sup> 以下にはほぼ均等に分割した単位ごとに1回、検査は3回の試験で1ロットを構成	供試体の採取	1回の試験には、適当な間隔をおいた3台の運搬車から1個ずつ採取した合計3個の供試体を使用		供試体の養生	標準養生		試験材齢	調査強度を定めるための基準とする材齢(28日)指定がある場合には指定材齢		試験機関	第三者試験機関または同等の能力を有する試験所		判定基準	鋼管充填コンクリートの調査管理強度 ( $\tau F_m$ ) 鋼管充填コンクリートの調査管理強度 ( $\tau F_m$ ) = 設計基準強度 ( $F_c$ ) + 鋼管充填コンクリートの構造体強度補正值 ( ${}_mSC_n$ )		合格判定の条件式	$X \geq F_c + {}_mSC_n$ ( $= \tau F_m$ ) $X$ : 1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm <sup>2</sup> ) ${}_mSC_n$ : 鋼管充填コンクリートの構造体強度補正值 (N/mm <sup>2</sup> ) $F_c$ : 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )		<p>表 8.6 構造体コンクリートの圧縮強度の検査</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">構造体コンクリートの圧縮強度の検査</th> </tr> <tr> <th>設計基準強度が 36 N/mm<sup>2</sup> 以下の場合</th> <th>設計基準強度が 36 N/mm<sup>2</sup> を超える場合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>検査のロット</td> <td>450 m<sup>3</sup> 以下</td> <td>300 m<sup>3</sup> 以下</td> </tr> <tr> <td>試験・検査回数</td> <td>試験は打込み日ごと、打込み工区ごとに行う。ただし、1日の計画打込み量が 150 m<sup>3</sup> を超える場合には、150 m<sup>3</sup> 以下にはほぼ均等に分割した単位ごとに1回、検査は3回の試験で1ロットを構成</td> <td>試験は打込み日ごと、打込み工区ごとに行う。ただし、1日の計画打込み量が 100 m<sup>3</sup> を超える場合には、100 m<sup>3</sup> 以下にはほぼ均等に分割した単位ごとに1回、検査は3回の試験で1ロットを構成</td> </tr> <tr> <td>供試体の採取</td> <td>1回の試験には、運搬車間隔をおいた3台の運搬車から1個ずつ採取した合計3個の供試体を使用</td> <td>1回の試験には、1台の運搬車から採取した3個の供試体を使用</td> </tr> <tr> <td>供試体の養生</td> <td colspan="2">標準養生</td> </tr> <tr> <td>試験材齢</td> <td colspan="2">調査強度を定めるための基準とする材齢(28日)指定がある場合には指定材齢</td> </tr> <tr> <td>試験機関</td> <td colspan="2">第三者試験機関または同等の能力を有する試験所</td> </tr> <tr> <td>判定基準</td> <td colspan="2">鋼管充填コンクリートの調査管理強度 (<math>\tau F_m</math>) 鋼管充填コンクリートの調査管理強度 (<math>\tau F_m</math>) = 設計基準強度 (<math>F_c</math>) + 鋼管充填コンクリートの構造体強度補正值 (<math>{}_mSC_n</math>)</td> </tr> <tr> <td>合格判定の条件式</td> <td> <math>X \geq F_c + {}_mSC_n</math> (<math>= \tau F_m</math>)  <math>X</math>: 回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm<sup>2</sup>)  <math>{}_mSC_n</math>: 鋼管充填コンクリートの構造体強度補正值 (N/mm<sup>2</sup>)  <math>F_c</math>: 設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>)                 </td> <td> <math>X \geq F_c + {}_mSC_n</math> (<math>= \tau F_m</math>)  <math>X</math>: 1ロットの試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm<sup>2</sup>)  <math>{}_mSC_n</math>: 鋼管充填コンクリートの構造体強度補正值 (N/mm<sup>2</sup>)  <math>F_c</math>: 設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>)                 </td> </tr> </tbody> </table>	項目	構造体コンクリートの圧縮強度の検査		設計基準強度が 36 N/mm <sup>2</sup> 以下の場合	設計基準強度が 36 N/mm <sup>2</sup> を超える場合	検査のロット	450 m <sup>3</sup> 以下	300 m <sup>3</sup> 以下	試験・検査回数	試験は打込み日ごと、打込み工区ごとに行う。ただし、1日の計画打込み量が 150 m <sup>3</sup> を超える場合には、150 m <sup>3</sup> 以下にはほぼ均等に分割した単位ごとに1回、検査は3回の試験で1ロットを構成	試験は打込み日ごと、打込み工区ごとに行う。ただし、1日の計画打込み量が 100 m <sup>3</sup> を超える場合には、100 m <sup>3</sup> 以下にはほぼ均等に分割した単位ごとに1回、検査は3回の試験で1ロットを構成	供試体の採取	1回の試験には、運搬車間隔をおいた3台の運搬車から1個ずつ採取した合計3個の供試体を使用	1回の試験には、1台の運搬車から採取した3個の供試体を使用	供試体の養生	標準養生		試験材齢	調査強度を定めるための基準とする材齢(28日)指定がある場合には指定材齢		試験機関	第三者試験機関または同等の能力を有する試験所		判定基準	鋼管充填コンクリートの調査管理強度 ( $\tau F_m$ ) 鋼管充填コンクリートの調査管理強度 ( $\tau F_m$ ) = 設計基準強度 ( $F_c$ ) + 鋼管充填コンクリートの構造体強度補正值 ( ${}_mSC_n$ )		合格判定の条件式	$X \geq F_c + {}_mSC_n$ ( $= \tau F_m$ ) $X$ : 回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm <sup>2</sup> ) ${}_mSC_n$ : 鋼管充填コンクリートの構造体強度補正值 (N/mm <sup>2</sup> ) $F_c$ : 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	$X \geq F_c + {}_mSC_n$ ( $= \tau F_m$ ) $X$ : 1ロットの試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm <sup>2</sup> ) ${}_mSC_n$ : 鋼管充填コンクリートの構造体強度補正值 (N/mm <sup>2</sup> ) $F_c$ : 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )
		項目		構造体コンクリートの圧縮強度の検査																																																									
設計基準強度が 36 N/mm <sup>2</sup> 以下の場合	設計基準強度が 36 N/mm <sup>2</sup> を超える場合																																																												
検査のロット	450 m <sup>3</sup> 以下	300 m <sup>3</sup> 以下																																																											
試験・検査回数	試験は打込み日ごと、打込み工区ごとに行う。ただし、1日の計画打込み量が 150 m <sup>3</sup> を超える場合には、150 m <sup>3</sup> 以下にはほぼ均等に分割した単位ごとに1回、検査は3回の試験で1ロットを構成	試験は打込み日ごと、打込み工区ごとに行う。ただし、1日の計画打込み量が 100 m <sup>3</sup> を超える場合には、100 m <sup>3</sup> 以下にはほぼ均等に分割した単位ごとに1回、検査は3回の試験で1ロットを構成																																																											
供試体の採取	1回の試験には、適当な間隔をおいた3台の運搬車から1個ずつ採取した合計3個の供試体を使用																																																												
供試体の養生	標準養生																																																												
試験材齢	調査強度を定めるための基準とする材齢(28日)指定がある場合には指定材齢																																																												
試験機関	第三者試験機関または同等の能力を有する試験所																																																												
判定基準	鋼管充填コンクリートの調査管理強度 ( $\tau F_m$ ) 鋼管充填コンクリートの調査管理強度 ( $\tau F_m$ ) = 設計基準強度 ( $F_c$ ) + 鋼管充填コンクリートの構造体強度補正值 ( ${}_mSC_n$ )																																																												
合格判定の条件式	$X \geq F_c + {}_mSC_n$ ( $= \tau F_m$ ) $X$ : 1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm <sup>2</sup> ) ${}_mSC_n$ : 鋼管充填コンクリートの構造体強度補正值 (N/mm <sup>2</sup> ) $F_c$ : 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )																																																												
項目	構造体コンクリートの圧縮強度の検査																																																												
	設計基準強度が 36 N/mm <sup>2</sup> 以下の場合	設計基準強度が 36 N/mm <sup>2</sup> を超える場合																																																											
検査のロット	450 m <sup>3</sup> 以下	300 m <sup>3</sup> 以下																																																											
試験・検査回数	試験は打込み日ごと、打込み工区ごとに行う。ただし、1日の計画打込み量が 150 m <sup>3</sup> を超える場合には、150 m <sup>3</sup> 以下にはほぼ均等に分割した単位ごとに1回、検査は3回の試験で1ロットを構成	試験は打込み日ごと、打込み工区ごとに行う。ただし、1日の計画打込み量が 100 m <sup>3</sup> を超える場合には、100 m <sup>3</sup> 以下にはほぼ均等に分割した単位ごとに1回、検査は3回の試験で1ロットを構成																																																											
供試体の採取	1回の試験には、運搬車間隔をおいた3台の運搬車から1個ずつ採取した合計3個の供試体を使用	1回の試験には、1台の運搬車から採取した3個の供試体を使用																																																											
供試体の養生	標準養生																																																												
試験材齢	調査強度を定めるための基準とする材齢(28日)指定がある場合には指定材齢																																																												
試験機関	第三者試験機関または同等の能力を有する試験所																																																												
判定基準	鋼管充填コンクリートの調査管理強度 ( $\tau F_m$ ) 鋼管充填コンクリートの調査管理強度 ( $\tau F_m$ ) = 設計基準強度 ( $F_c$ ) + 鋼管充填コンクリートの構造体強度補正值 ( ${}_mSC_n$ )																																																												
合格判定の条件式	$X \geq F_c + {}_mSC_n$ ( $= \tau F_m$ ) $X$ : 回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm <sup>2</sup> ) ${}_mSC_n$ : 鋼管充填コンクリートの構造体強度補正值 (N/mm <sup>2</sup> ) $F_c$ : 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	$X \geq F_c + {}_mSC_n$ ( $= \tau F_m$ ) $X$ : 1ロットの試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm <sup>2</sup> ) ${}_mSC_n$ : 鋼管充填コンクリートの構造体強度補正值 (N/mm <sup>2</sup> ) $F_c$ : 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )																																																											